
日本図書館文化史研究会

ニューズレター

第 93 号 2005 年 8 月 1 日

日本図書館文化史研究会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalih/index.html>

〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1

明治大学司書・司書教諭課程

郵便振替口座 00170-5-164973

(事務局)

〒143-0026 大田区西馬込 1-31-11

小黒浩司

ファックス 03(3777)3609

電子メール oguro@sakushin-u.ac.jp

■■ 目 次 ■■

日本図書館文化史研究会 2005 年度研究集会・総会のご案内	2
日本図書館文化史研究会 2004 年度活動報告	9
日本図書館文化史研究会 2004 会計年度決算報告	10
日本図書館文化史研究会 2005 年度予算(案)	11
速報!!研究会のウェブサイト(ホームページ)が開設されました	12
『ニューズレター』バックナンバーのウェブ掲載について	
創立 25 周年記念「図書館人物伝(仮称)」原稿募集について	13
2005 年度第 1 回例会報告	14
『図書館文化史研究』第 22 号がまもなく刊行されます	
運営委員会通信	15
事務局だより	16
会員動向	
お詫びと訂正	

日本図書館文化史研究会

2005 年度研究集会・総会のご案内

2005 年度日本図書館文化史研究会研究集会・総会を、下記のように開催することになりました。

今年度の研究集会では、「図書館用品 その保存と活用」と題したシンポジウムを、日本図書館協会と共同で開催します。多くの方の参加を期待します。

記

- 日 程 : 2005 年 9 月 17 日 (土)・18 日 (日)
- 会 場 : 日本図書館協会会館
- 交 通 : 営団地下鉄東西線・日比谷線茅場町駅下車徒歩 5 分
東京駅下車徒歩 20 分
※ 会場・交通案内の地図は 8 ページに掲載しました。
また、次の URL をご参照ください。
<http://www.jla.or.jp/kaikan.htm>
- 開催方法 : 日本図書館協会との共同開催
- 参加費 : 1,500 円
懇親会参加費 5,000 円
2 日目の昼食弁当 (事前予約制) 1,050 円
※ 会場近辺の食堂等は日曜休業が多いため、弁当の予約販売を実施します
- 申込方法 : 次の事項を明記して、下記まで電子メール、ファックス、または葉書でお申し込みください。
 - ✓ 氏名 (ふりがな)
 - ✓ 所属
 - ✓ 懇親会参加の有無
 - ✓ 2 日目の昼食弁当の予約希望
- 申込先 : 〒321-3295 宇都宮市竹下町 908
作新学院大学 司書・司書教諭課程
小黒 浩司
電子メール : oguro@sakushin-u.ac.jp
ファックス : 028(670)3671
- 申込締切 : 2005 年 8 月 31 日 (必着)

○ プログラム

第1日：9月17日（土）

シンポジウム

- テーマ： 図書館用品 その保存と活用
- 報告者： 竹内 哲（日本図書館協会理事長）
木原 祐輔（キハラ株式会社代表取締役）
小川 徹（日本図書館文化史研究会前代表）
- 司会： 中林 隆明（東洋英和女学院大学教授）

- 12:30- 受付開始
- 13:00-13:30 CIE 映画『格子なき図書館』上映会
- 13:30-13:40 挨拶
- 13:40-14:10 報告① 竹内 哲 図書館用品の標準化—図書館協力への展望のもとで
- 14:10-14:40 報告② 木原 祐輔 歴史的図書館用品の現状
- 14:40-15:10 報告③ 小川 徹 明治期、図書館用品の欧米からの受け入れと工夫の様子、その一端
- 15:10-15:30 休憩
- 15:30-17:00 全体討論
- 17:30-20:00 懇親会（参加費 5,000 円）
会場： シェルブール
日本図書館協会会館より徒歩 5 分、ホテルユニバース地下 1 階（地下鉄茅場町駅前）

第2日：9月18日（日）

- 10:00-11:00 個人発表① メアリー・レミスト・ティッコム—ブックモバイル（移動図書館）のパイオニア
中山 愛理（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程）
- 11:00-12:00 個人発表② 華中鉄道図書館：森清の上海時代
米井 勝一郎（愛知県図書館）
- 12:00-13:00 昼食
- 13:00-14:00 個人発表③ 情報検索のための道具・機器の記録化
木本 幸子（大妻女子大学家政学部）
- 14:00-15:00 個人発表④ 幕末公開文庫の蔵書構築—伊勢“射和文庫”の事例から
高倉 一紀（皇學館大學文学部）
- 15:15-16:15 会員総会
- 16:15-17:00 運営委員会

第1日

シンポジウム

- テーマ : 図書館用品 その保存と活用
- 報告者 : 竹内 愔 (日本図書館協会前理事長)
木原 祐輔 (キハラ株式会社代表取締役)
小川 徹 (日本図書館文化史研究会前代表)
- 司 会 : 中林 隆明 (東洋英和女学院大学教授)
- シンポジウムの趣旨

日本図書館文化史研究会は、今回の研究集会を、日本図書館協会との共催で、図書館用品の歴史を探り、その保存について考えることをテーマに行います。

本研究会は成立してまもなく 25 年になります。この間多面的に研究が行われてきました。しかし未開拓の領域は少なくありません。今回取り上げる図書館用品の調査研究もそのひとつです。

明治以来日本の図書館は、欧米の図書館制度を導入し、参考にしてきました。図書館用品についても同様でした。見よう見まねの手探り、自己流で、それぞれの図書館が必要な用品を作り使うことから始まりました。やがて図書館用品を扱う専門の業者が生まれ、図書館の求めに応じてさまざまな用品を製品化、販売をしていくなかで、工夫され多種多様な用品が生産されました。ことに第二次大戦後は図書館活動の活発化とともに、専門業者は増加し、大いに創意工夫されてきました。

しかしここ 20 年ほどのあいだに図書館の仕事内容が大きく変わりました。長らく図書館の仕事は伝統的な、手工業の世界でしたが、さまざまな面で機械化が進み、同時に業務の外注化が進行しました。その結果、図書館で整理部門の職員が分類し目録をとり、カード目録を配列する、あるいは本の装備をするという手仕事はほとんど、あるいは全くなくなりました。

それにともないその仕事で使っていたタイプライター、謄写印刷器、ラベル、さまざまなゴム印、カード仕分け器（ガイコツと呼んでいた図書館も）などが廃棄されました。目録の電子化によってカード目録、カードケースも同様に不要となりました。またかつての入館証、閲覧証、フォトチャージ、ブラウン式貸出しのための品々なども失われつつあります。

他方、書架、カウンター、閲覧席、キャビネット、新聞架、各種サインは使われていますが、どんどん新しいものに置き換えられて、かつてのものはなくなっています。重い辞書を見るための辞書閲覧台などもずい分の変遷がありますが、かつての鉄製の無骨なものは今では見ることはほとんど見ることができなくなりました。

これら、多くの使われなくなった図書館用品には、それぞれの時代の工夫と経験が蓄積されています。しかしそれらが使われなくなり、失われていけば、そしてそれらを使って仕事してきた職員が職場を去っていけば、過去の工夫、

経験を次代に引き継いでいくことは困難になります。

まして今日、図書館の世界では職場には経験豊かな職員がほとんどいなくなり、いても次代に経験を引き継いでいくことが困難になっています。しかしものづくり、サービスの現場では、今日次第にそのような状況への反省が生まれているのではないのでしょうか。

今回の企画はこういう今日的な課題を念頭に、図書館用品の歴史を振り返り、失われつつある図書館用品の保存と今後について考えてゆこうとするものです。

【報告①】 13:40-14:10

竹内 愨（日本図書館協会前理事長）

○ 報告題名

図書館用品の標準化—図書館協力への展望のもとで

○ 報告要旨

図書館用品なるものが生まれ、そして標準化して行くのには、先ずそれぞれの図書館での実務の積み重ねがあり、その多様さが混乱を招いて、「標準化」を受け入れるに至ったのではないだろうか。それには、それと平行して、「図書館界」の存在が意識され、協力によってよりよい図書館サービスを実現しようとする職業人としての意欲が関わるものと思われる。それを考えて行けば、その時どきにおける図書館サービスの考え方と、それに加えられるいくつかの条件が見えてくるであろう。そういう予想を、限られた材料の中からどこまで追うことができるか、無謀とは思いながらも、試みてみたいと思う。

【報告②】 14:10-14:40

木原 祐輔（キハラ株式会社代表取締役）

○ 報告題名

歴史的図書館用品の現状

○ 報告要旨

昨年よりキハラ株式会社では、日本図書館協会からの委託事業として「歴史的図書館用品の調査・収集」を始めました。幸い全国の図書館から好意的なご協力を頂き順調なスタートいたしております。すでに昨年の図書館総合展にて一部を展示させていただきましたが、その後、現在までに調査・収集いたしました用品を、画像データによりご紹介させていただき、若干の感想をお話いたします。

【報告③】 14:40-15:10

小川 徹（日本図書館文化史研究会前代表）

○ 報告題名

明治期、図書館用品の欧米からの受け入れと工夫の様子、その一端

○ 報告要旨

明治期、欧米の影響を受けて近代的な図書館が発した。その理念、組織、運営、建築など様々学びながらであったが、図書館用品についても同様であった。書架、閲覧机、出納台を中心に少し見てみたい。

第 2 日

個人発表

【発表①】 10:00-11:00

中山 愛理（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程）

○ 発表題名

メアリー・レミスト・ティッコム—ブックモバイル（移動図書館）のパイオニア

○ 発表要旨

19世紀末から20世紀初頭にかけてアメリカで活躍したM.ティッコムは、現代の図書館サービスのあり方について大きな影響を及ぼした。今年（2005年）は、メリーランド州において、ティッコムが馬車を使って移動図書館サービスをはじめて1世紀にあたる。アメリカ公共図書館史において、動く図書館（ブックモバイル）による積極的な館外活動や児童サービスなどに大きな足跡を残したティッコムの業績について検討したい

【発表②】 11:00-12:00

米井 勝一郎（愛知県図書館）

○ 発表題名

華中鉄道図書館：森清（もり・きよし）の上海時代

○ 発表要旨

華中鉄道とは、1939（昭和14）年4月に設立された日中合弁の特殊会社である。本社は上海におかれ、華中地域における鉄道交通の大動脈を管理・運営していた。森清は、1939（昭和14）年から1946（昭和21）年までの約6年と4ヶ月、この華中鉄道の図書館業務に携わった。

本報告では、森清が担当した華鉄図書館の活動の一端を明らかにしてみたい。戦時下のこの時期の図書館については、軍ファシズムを中心とする権力による圧力と干渉の前に、図書館員は萎縮し、図書館は不振に喘いでいたとイメージされることが多い。しかし、森の上海での活動を振り返ってみる時、我々はそ

うしたイメージとは異なる図書館史像の一端をかいま見ることになる。

【発表③】 13:00-14:00

木本 幸子（大妻女子大学家政学部）

○ 発表題名

情報検索のための道具・機器の記録化

○ 発表要旨

コンピュータ検索が始まる以前の情報「検索」のための道具、コンピュータ検索の初期段階で使用された機器は、すでに使用されなくなり、それらの多くは実物を見ることがなくなった。特にコンピュータ以前の道具類は、担当者の世代交代によりほとんどが廃棄されている。またコンピュータ関連の機器は進歩の速度が速く、加速度的に更新し、旧型は廃棄されている。

情報検索のための道具・機器の保存および記録化の必要性を強く感じ、これらの存在を組織的に調査し、収集した。それらを情報検索の歴史的流れに沿った形で、情報検索のための道具・機器を記録化した。

【発表④】 14:00-15:00

高倉 一紀（皇學館大學文学部）

○ 発表題名

幕末公開文庫の蔵書構築—伊勢“射和文庫”の事例から

○ 発表要旨

江戸時代の文化形成や社会変容と蔵書家の関わりは、これまで必ずしも積極的な関心の対象とはならなかった。しかし、近世後期における彼らの活動は、以下の三点により極めて重要なものとする。

- ① 情報や知識の‘受信者’‘享受者’（第二の知識人）として
- ② 知的生産者（著者）と地域社会を架橋する‘中継者’‘媒介者’として
- ③ 知的生産者への蔵書貸出、同好者間の相互貸借に見える‘資料提供者’として

近世後期の伊勢国では、こうした蔵書家の叢生が数々の私文庫を生み出し、更には地域社会に開放された公開文庫の出現をもたらした。今回の研究発表では、如上の蔵書家及び文庫研究の一端として、伊勢の公開文庫“射和文庫”の蔵書構築の実態を、富商竹口信義の「納本」に関する新資料を中心に検討する。

会員総会

次のような案件の審議を予定しています。多くの方のご参加をお願いします。
なお、その他検討すべき議案などがあれば、事務局までご連絡ください。

議事内容

1. 日本図書館文化史研究会 2004 年度活動報告(2004.4-2005.3)
2004 年度の活動内容をご報告します。9 ページの資料をご参照ください。
2. 日本図書館文化史研究会 2004 会計年度決算報告(2004.4-2005.3)
2004 会計年度の決算をご報告します。10 ページの資料をご参照ください。
3. 日本図書館文化史研究会 2005 年度予算 (案)
2005 年度の予算、ならびに活動計画を提案します。11 ページの資料をご参照ください。
4. 創立 25 周年記念事業について
創立 25 周年記念事業について、ご審議をお願いします。
5. 日本図書館文化史研究会ウェブサイト (ホームページ) について
このたび開設したウェブサイト (ホームページ) について、ご報告します。

会場案内

日本図書館文化史研究会

2004 年度活動報告(2004.4-2005.3)

1. 第 21 回研究集会・総会の開催

参照：『ニューズレター』第 90 号

期 日 2004 年 9 月 11・12 日

会 場 京都精華大学

- 第 1 日目は、京都精華大学情報館見学会、河井弘志氏の特別講演「図書館史と図書館思想史と図書館学史」、シンポジウム「戦後公共図書館実践の再検証」を実施した。第 2 日は個人発表 3 件と総会を実施した。
- 総会では、2003 年度活動報告、2003 年度決算報告、2004 年度予算、創立 25 周年記念事業等が審議された。

2. 機関誌『図書館文化史研究』第 21 号の刊行(2004 年 9 月)

田村俊作氏の特別講演の記録、論文 2 篇等を掲載し、刊行した。

3. 会報『ニューズレター』の編集刊行

第 88 号を 2004 年 5 月、第 89 号を同 8 月、第 90 号を同 11 月、第 91 号を 2005 年 2 月に刊行した。

4. 研究例会

(1)第 1 回例会（期日：2004 年 6 月 19 日、会場：明治大学アカデミーコモン）2 件の発表を実施した。参照：『ニューズレター』第 89 号

(2)第 2 回例会（期日：2004 年 12 月 11 日、会場：明治大学アカデミーコモン）実施した。参照：『ニューズレター』第 91 号

(3)第 3 回例会（期日：2005 年 3 月 12 日、会場：明治大学アカデミーコモン）2 件の発表を実施した。参照：『ニューズレター』第 92 号

5. 運営委員会の開催

2004 年 6 月 19 日（明治大学）、7 月 24 日（明治大学・臨時）、9 月 12 日（京都精華大学）、12 月 11 日（明治大学）、2005 年 3 月 12 日（明治大学）の 5 回実施

6. 会員動向

2005 年 3 月末日現在：161 名

（うち名誉会員 3 名、04 年 3 月末：152 名、2003 年 3 月末：146 名）

新入会：10 名（04 年度：12 名、03 年度：10 名）

退 会：1 名（04 年度：6 名、03 年度：4 名）

日本図書館文化史研究会

2004 会計年度決算報告 (2004.4 - 2005.3)

収入		1,016,047	
	金額	備考	
郵便局貯金利子 会費	453,480		
	03年度分 18,000	6名	
	04年度分 438,000	146名 (ほか前年度納入済4名、名誉会員3名、未納7名)	
	04年度分 2,500	1名 (前年度500円過納分を清算)	
	05年度分 2,400	8名 (うち2名は05年度新入会)	
	06年度分 3,000	1名	
	同振込手数料	-10,420	70円136件、60円15件 (ほか自己負担3件)
研究集会剰余金	33,120	詳細別紙	
2003年度繰越金	529,447		
支出		425,171	
	金額	備考	
『図書館文化史研究』21号制作・発行費	281,875		
	日外支払い 253,170		
	寄贈分送料 1,510		
	奥泉氏立替分 9,000		
	抜き刷り制作費 15,750		
	振込手数料 105		
	送料 2,340		
『ニューズレター』88号制作・発行費	36,405		
	印刷費 21,000		
	振り込み手数料 105		
	送料 14,830	161通*90円、140円*1通、200円*1通	
	版下送料 470		
『ニューズレター』89号制作・発行費	33,680		
	印刷費 18,900		
	送料 14,780	162通*90円、1通*200円	
『ニューズレター』90号製作・発行費	31,775		
	印刷費 16,800		
	送料 14,870	159通*90円、4通*140円	
	振り込み手数料 105		
『ニューズレター』91号製作・発行費	26,408		
	印刷費 13,650		
	送料 12,348	164通*90円、2通*80円 (合計14,920円のうち2,572円郵差)	
	版下送料 410		
第1回研究集会費用	1,388		
事務局経費	13,640		
	通信費 9,020	詳細別紙	
	事務用品購入 0		
	運営委員会等開催費 0		
	交通費 4,620	詳細別紙	
2005年度への繰越金	590,876		

監査の結果、帳簿の記入、事務処理が適正に行われていたことを報告します。

監事 山本 順一 印
 監事 山口源治郎 印

日本図書館文化史研究会
2005年度予算(案)

収入		1,116,391	
	金額	備考	
郵便局貯金利子	15		
会費	439,500		
2005年度分	450,000	150名×3,000円	
同振込手数料	-10,500	150名×70円	
研究例会・集会参加費	85,000		
第2回例会	5,000	10名*500円	
第3回例会	5,000	10名*500円	
研究集会	75,000	50名*1,500円	
雑収入	1,000	予稿集売り上げ	
2004年度繰越金	590,876		
支出		565,975	
	金額	備考	
『図書館文化史研究』22号発行費	300,000		
『ニューズレター』発行費	130,975		
92号	31,975	(発行済)	
93号	33,000		
94号	33,000		
95号	33,000		
研究例会・集会運営費	85,000		
第1回例会	0	(実施済)	
第2回例会	5,000		
第3回例会	5,000		
2005年度研究集会	75,000		
事務局経費	50,000		
通信費	10,000		
事務用品購入	25,000	長3封筒、会費振込用紙印刷費15,855円を含む	
運営委員会開催費	10,000		
交通費	5,000		
2006年度への繰越金	550,416		
特別会計		100,000	

速報!!研究会のウェブサイト（ホームページ）が開設されました

研究会のウェブサイト（ホームページ）の開設は、研究会の活動の活性化と内外への広報体制の充実などの観点から、積年の懸案事項となっていました。今期運営委員会では、広報担当の運営委員を新たに選任して、その構築と維持に向け体制を整えました。

ウェブサイト開設については、国立情報学研究所の「学協会情報発信サービスホームページ構築サービス」を利用することにし、開設準備が一定程度進捗したことから、同サービスの利用申請を行いました。利用申請が承認されたことを受け、NIIのサーバへデータを転送し、ウェブサイトの閲覧が可能になりました。

本研究会のウェブサイトの URL は次のとおりです。ぜひとも本研究会のウェブサイトにお立ち寄りください。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalih/index.html>

また、ウェブサイトの内容などについて、ご意見などをお寄せください。皆様のご意見などを参考に、ウェブサイトの充実をはかっていきます。なお、セキュリティ対策上、直接の書き込みは受けつけていません。

『ニューズレター』バックナンバーのウェブ掲載について

本研究会は、2007年に創立25周年を迎えますが、同年には本誌『ニューズレター』も創刊100号に達する見込みです。

研究会の会誌である本誌には、図書館文化史研究上貴重な記事が少なからず掲載されています。そこで創立25周年・創刊100号を記念する意味を含めて、既刊の本誌を順次PDFファイル化し、研究会のウェブサイトに掲載することを計画しました。

他方、本誌は多くの皆様から寄せられた記事によって構成されており、ウェブ掲載に際しては、皆様の許諾をいただく必要があります。

つきましては、本誌掲載の皆様のご著作で、ウェブ化を認めないものがあれば、事務局までご連絡ください。特にお申し出がなければ、許諾いただいたものとみなし、上記のように順次PDFファイル化して、研究会のウェブサイトに掲載していきたいと思っております。

なお、個人情報の保護に留意して、「会員動向」欄等に掲載した会員の皆様の自宅住所、電話番号、メールアドレスは削除し、掲載しないようにします。また、電子版の「会員名簿」も作成しない方針であることを申し添えます。

創立 25 周年記念

「図書館人物伝（仮称）」について

ニューズレターで既報のように、本研究会では創立 25 周年を記念して、「図書館人物伝（仮称）」を刊行する計画を進めています。会員の皆様のご投稿、取り上げるべき人物についてのご意見を募りましたところ、以下のような人物の名があがってきました。

当初、本年末を目処に採録する人物、ならびに執筆者を確定する予定でしたが、すでに多数の応募があることから予定を繰り上げて、8 月末日で応募をいったん締め切らせていただきます。そして 9 月の会員総会で「人物伝」の内容を確定し、刊行の準備を進めたいと考えます。

つきましては、「人物伝」への投稿を希望される方はお早めに事務局までお申し出ください。なお、投稿規定・執筆要領は、『『図書館文化史研究』投稿規定・執筆要領』に準じて下さい。原稿の分量は 400 字詰原稿用紙換算で 50 枚程度、締め切りは 2006 年 12 月末日となります。

また、「人物伝」で取り上げるべき人物などにつきまして、会員の皆様からのご提案・ご要望なども、8 月末までにお願いします。25 周年事業についてのご意見等は、引き続き受け付けます。

○ これまでに寄せられた「人物伝」対象者

今井貫一
 今澤慈海
 大西伍一
 岡 千仞
 叶沢清介
 佐野友三郎
 島尾敏雄・伊波普猷・真境名安興
 田所糧助
 本間一夫
 湯浅吉郎
 森 博
 ヘディッグ・アヌアール
 P.O.キーニー
 J.H.シェラ
 リリアン・スミス
 メアリー・レミスト・ティッコム

2005 年度第 1 回研究例会報告

実施日：2005 年 7 月 2 日

会場：大倉精神文化研究所

今年度第 1 回研究例会として、大倉精神文化研究所の見学会を実施しました。見学会は、同研究所専任研究員の打越孝明氏に終始ご案内いただきました。まず研究所の建物を内と外からじっくりと見学しました。この建物は 1932 年の竣工で、横浜市の文化財に指定されています。

次いで、建物の東館にある附属図書館を見学しました。同館は、例えば米国ライブラリー・ビューロー製スチール製の積層書架（5 層・現在も使用中）やスチール製カードケース、黒澤商店製の木製カードケース、間宮商店製の目録カードなど、歴史的な図書館用品を多数所有しています（木原祐輔、宇田川恵子「歴史的図書館用品の調査・収集と保存」『LISN』No.121,2005.1,pp.5-6.）。

また同館の蔵書もまた貴重なものが多く、研究所の建設関係資料 4,546 点は横浜市の文化財に指定されています。それら蔵書についても詳細な説明をいただきながら、見学しました。

今回の例会は、事前の予想を上回り、非会員 1 名を含む 14 名の参加者を得ました。9 月の研究集会における「図書館用品 その保存と活用」をテーマとしたシンポジウムの開催に向け、弾みをつけることができましたと思われます。

今回の例会実施に当たり、打越氏をはじめ、同研究所の皆様大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

（文責：事務局）

『図書館文化史研究』第 22 号が間もなく刊行されます

機関誌『図書館文化史研究』第 22 号が 9 月に刊行されます(総ページ数 92p)。目次は次のとおりです。

- | | | |
|--------|------|------------------------------|
| 河井弘志 | 特別講演 | 図書館史と図書館思想史と図書館学史 |
| シンポジウム | | 戦後公共図書館実践の再検証 |
| 塩見昇 | | 戦後図書館実践の展開についての史的考察 |
| 伊藤昭治 | | レファレンス・サービスの模索と実践 |
| 石塚栄二 | | 戦後公共図書館発展の背景 |
| 野口武悟 | | 戦前期日本における障害者サービスの展開 |
| | | —障害者自身の図書館サービスをめぐる運動と実践を中心に— |

運営委員会通信

■ ■ 次回運営委員会について ■ ■

次回運営委員会を、下記のように開催します。本研究会の運営に興味・関心のある方は、是非ともご参加ください。

当日ご都合の悪い方は、別記事務局まで郵便、ファックス、または電子メールで、ご意見、ご希望等をお寄せいただければ、運営委員会で検討いたします。

記

- 日 時 9月18日(日) 16時15分～17時
- 場 所 日本図書館協会会館
- 内 容 1. 2005年度第2回研究例会について
2. 25周年記念事業について
3. 2006年度研究集会について

ほか

■ ■ 前回運営委員会の報告 ■ ■

実施日：2005年7月16日
場所：明治大学

以下のような事項について、協議しました。

1. 2004年度決算について
2. 2005年度予算案について
3. 研究会特別会計について
4. 2005年度第1回研究例会について
5. 2005年度第2回研究例会について
6. 『ニューズレター』第92・93号について
7. 2005年度研究集会について
8. 研究会ウェブサイトについて
9. 25周年記念事業「図書館人物伝」について
10. 会員動向
11. 次回運営委員会について

事務局だより

■■ 会員動向 ■■

新入会

住所変更

所属変更

退会

お詫びと訂正

『ニューズレター』前号（p.6）で、シンポジウム司会者中林隆明氏のお名前を、誤って記載しました。お詫びして訂正します。